

令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト  
 集中在宅巡回 報告書

報告日:2024年9月9日

報告とりまとめ:宮前繁、佐々木久美子

発災から8ヶ月が経過し、住民の生活環境、生活再建の進捗、健康状態は刻々と変化してきている。このたび、健康状態の把握に合わせ、夏季の状況および熱中症等の注意喚起、台風到来や冬季に向けた生活再建状況の確認と、要支援者の抽出に向け、集中在宅巡回が行われた。活動への参画結果について、報告する。

2 目的

令和6年能登半島地震で被災し、避難所や仮設住宅での避難生活を送っている方々以外を対象に個別訪問を実施し、健康や居住環境についてヒアリングを行い、必要に応じて支援を実施する。

2 期間

2024年8月19日～29日 8/26の週は台風の影響で活動縮小

2 対象

珠洲市内の避難所、仮設住宅以外に居住する方

表. 活動者、訪問結果一覧

日付 2024年	活動者	面談件数/訪問件数
8/19(月)	宮前	12/51
8/20(火)	大村、宮前、白鳥*、山本*	10/46
8/21(水)	酒井(明)、朝田、花房、大村、宮前、白鳥*、山本*	12/112
8/22(木)	宮前、白鳥*、山本*、日高*	9/36
8/23(金)	宮前、日高*	10/26
8/24(土)	佐々木、寺田、金谷、宮前、日高*	18/56
8/25(日)	佐々木、寺田、登谷、金谷、朝田、作川、紫	10/81
8/28(水)	酒井(彰)	1/1
合計	延べ 31人	延べ 82/409

\* 学生会員 (SAN)

#### ○ 発災 8 ヶ月後の健康、生活状況とその課題

集中在宅巡回に参加し、現地の多くの声をお聞きする機会になり、二次的な健康被害の予防、そしてコミュニティの再構築に向けた、生業と居住環境の再建のための具体的かつ効果的な支援が求められた。

在宅では、準半壊や一部損壊の自宅で生活をされている方、自宅の被害が軽微であっても支援金のみでは修繕できず困られている方、年金暮らしで先の生活を不安がられている方がおり、修繕しようにも業者が不足していることで順番待ちになっていた。台風の時期にも関わらず、いまだ瓦が落ち、ブルーシートで覆っている状態の家も多かった。また、電気やガス等のライフラインを確保できていたお宅が多かった一方、まだポリタンクで水を汲みに行きながら確保されていた方もいた。人が健康的に営みを続けるうえで、上下水道、ガス、電気の確保は必須といえ、早期復旧が望まれる。生活の再建にあたっては、生業の復興も重要であるが、漁業を生業にされていた方々は海岸の隆起や漁船の損傷等により、農業を生業にされていた方々は地震による土地の液状化や農地の地割れ等により、生業の再開が困難になっていた。地域文化継承のためにも、地域の根づく生業を継続する方策が必要である。

巡回中に、町中で見かける人は少なく、話をうかがうと、バス等公共の交通網が減少していることにより自由に買い物や外出にいけなくなった方、周辺家屋の全壊や地域外への長期避難者が相次いだことで閑散した町に外出する意欲が低下した方など、外出機会が減っていた。生活不活発発病の予防に働きかけつつ、地域内のつながりの維持と再構築に向け、公共交通網の再建、そして交流機会の創出や地域イベントの再開が求められる。

以上